



報道関係者 各位

令和3年11月30日
新潟労働局労働基準部 健康安全課
課長 上田克郎
地方産業安全専門官 鈴木政昭
(電話) 025 - 288 - 3505

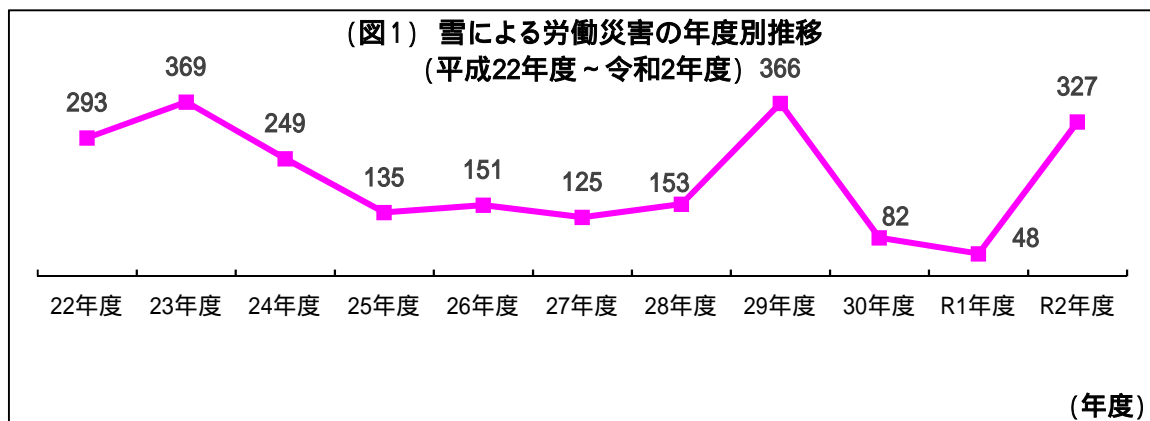
「冬季無災害運動」を推進します！

＜取組期間＞ 令和3年12月1日から令和4年2月28日まで
～冬季に発生しやすい新潟特有の労働災害防止対策に取り組みましょう！～

新潟労働局(局長 岩瀬 信也)は、令和3年12月1日から令和4年2月28日までの間を「冬季無災害運動推進期間」と定め、特に、冬季における転倒災害等の防止を図ることを重点に、労働災害防止団体等の関係事業者団体、国や地方公共団体等と連携して冬季間における労働災害防止策を講じることとしている。

例年、冬季特有の労働災害防止について働きかけを行っているが、昨冬においては記録的な豪雪となり、雪による労働災害(休業4日以上)の死傷者数は、327人(前年度比+279人(581.3%))と、大幅な増加となった。(図1)

建設業において、コンテナハウスに積もった雪を除雪しようと屋根に上がる際、2.6m下の地面に墜落する死亡災害も発生した。



新潟労働局長公開パトロール実施

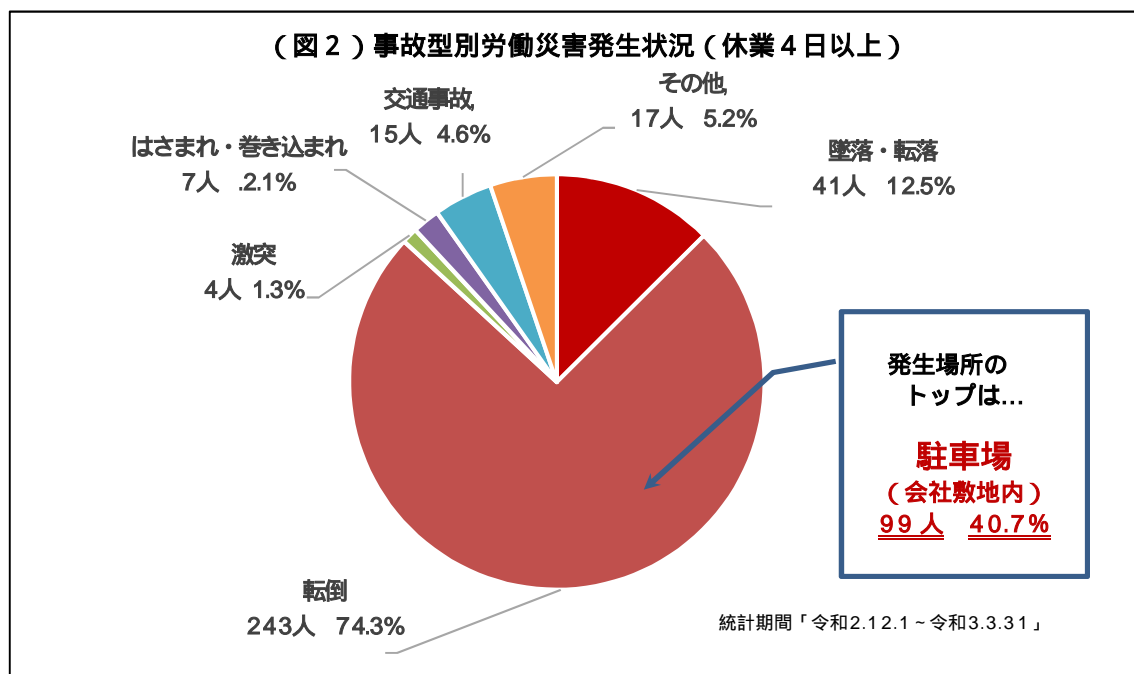
日時 令和3年12月2日(木) 4時50分～6時15分

場所 新潟市中央卸売市場

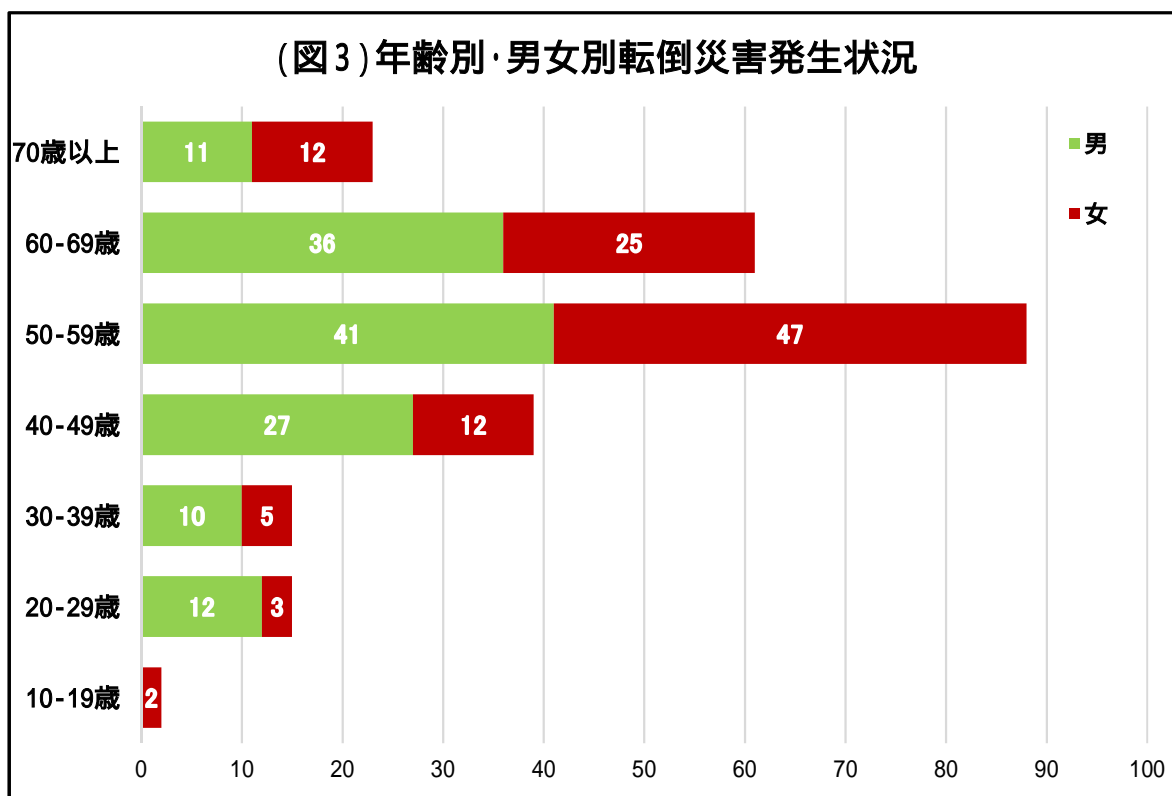
新潟市江南区茗荷谷711番地

取材希望者は事前に申し込みが必要です。

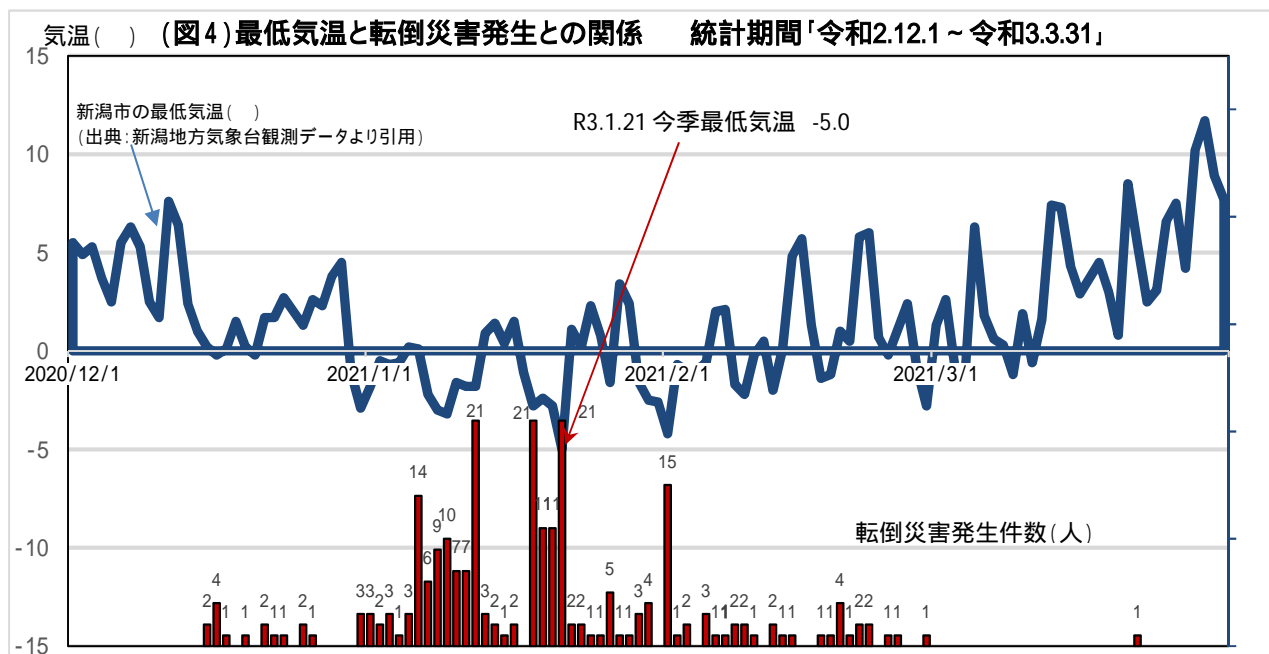
事故の型別にみると、転倒災害が243人であり雪による労働災害全体の7割以上を占めており、発生場所では「駐車場」が99人(40.7%)と最も多く、通勤時、車の乗降りの際に車周辺で転倒する災害が多発している。(図2)



年齢別では、男女ともに50歳以上で発生率が高く、特に50歳代・60歳代の発生が顕著に多く、転倒すると重症化して休業日数が長期化する傾向となっている。(図3)



最低気温との関係では、氷点下2度以下となると一気に転倒災害の発生リスクが高まる傾向が見られる。(図4)



転倒災害を防ぐには…

- ✓ 時間に余裕をもって、急がず、小さな歩幅で歩行する
- ✓ 駐車場等は除雪・融雪し、凍結防止剤を散布する
- ✓ 職場の危険マップを作成し、適切な履物を着用する
- ✓ 天気予報に気を配る

新潟労働局では「STOP！転倒災害プロジェクト」を推進しています

詳しくは…



冬季無災害運動 推進中!

～冬季に発生しやすい北陸特有の災害に対する防止対策に取り組みましょう～

令和3年

令和4年

実施
期間

12/1～2/28



CHECK POINT

凍結による転倒災害を防ぐために

- 時間に余裕をもって、急がず、小さな歩幅で歩行しましょう
- 駐車場等は除雪・融雪し、凍結防止剤を散布しましょう
- 職場の危険マップを作成し、適切な履物を着用しましょう
- 天気予報に気を配りましょう



スリップによる 交通災害を 防ぐために

CHECK POINT

- 早めに冬用タイヤを装着!
- 急ハンドル、急ブレーキ、急発進はしない!
- 無理のない走行計画を!
- 交通安全マップを作成!



除雪機械による 災害を 防ぐために

CHECK POINT

- 機械の故障、点検時にはエンジン停止!
- 運転時には周囲を確認!
- 除雪範囲内への立入禁止徹底!



屋根除雪中の 墜落災害を 防ぐために

CHECK POINT

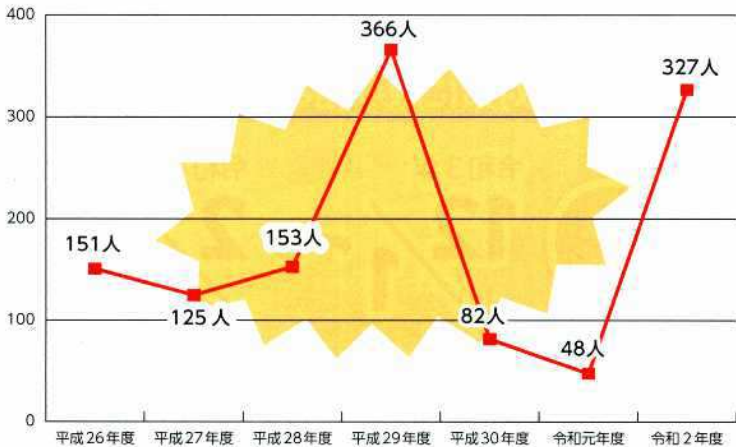
- 2名以上での作業を!
- 保護帽と墜落制止用器具着用!
- 作業計画を策定!
- 作業指揮者を選任!



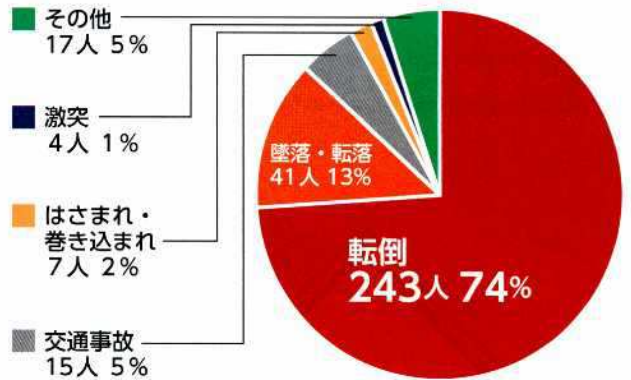
新潟労働局・各労働基準監督署

雪による労働災害に注意!!

雪による労働災害発生件数の推移 (新潟県_休業4日以上)



事故型別労働災害発生状況 (新潟県_休業4日以上)

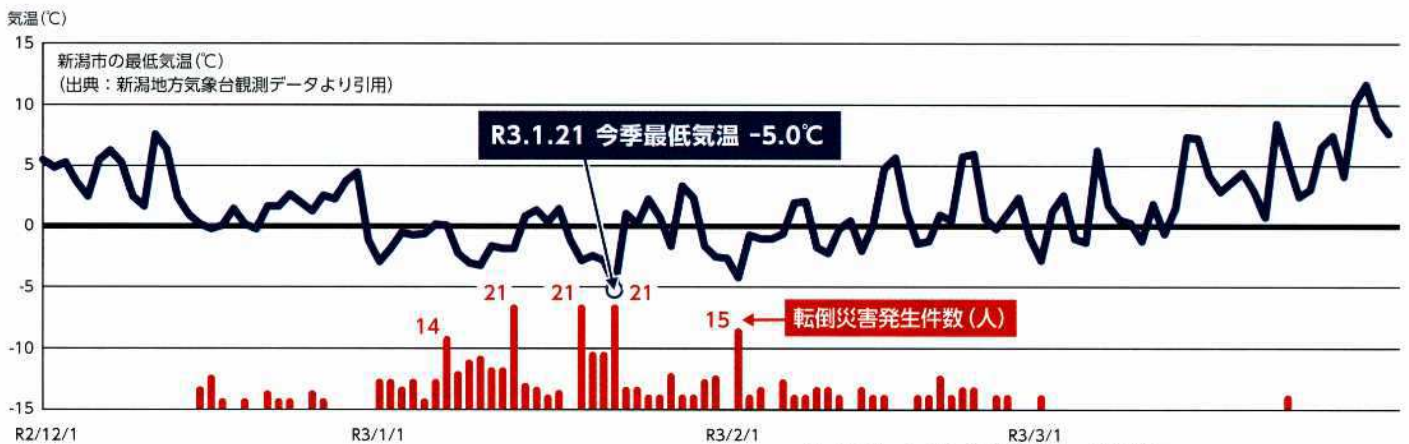


※統計期間「令和2.12.1～令和3.3.31」

冬季無災害運動期間中(12～2月)の転倒災害発生状況

冬季の転倒災害では...

最低気温は、その地域によってバラツキはありますが、相対的に最低気温が**氷点下2度以下**となると、急激に発生リスクが高まる傾向となっています。



Check!

大雪や低温に関する気象情報を迅速に把握しよう!

(参考)
新潟県ホームページ「新潟県の雪の情報」
<http://www.chiiki.pref.niigata.jp/yuki>

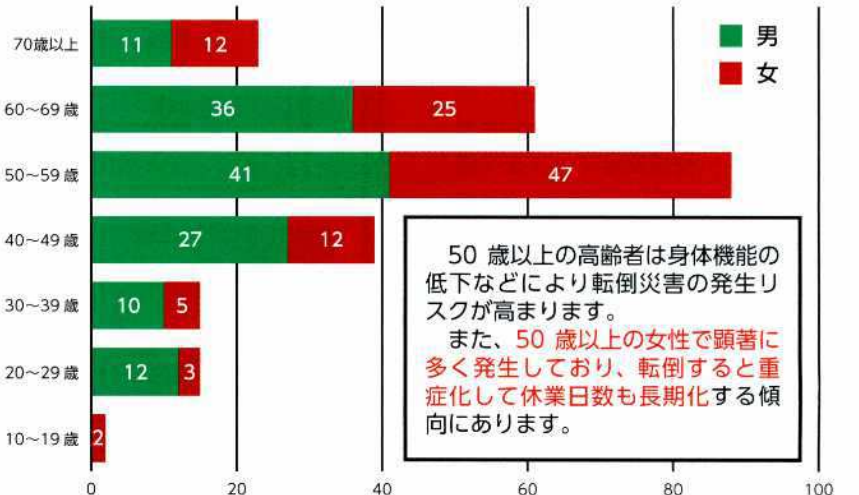
Check!

敷地内の出入口、駐車場、屋外通路の転倒リスクの重点的な点検、注意喚起等、労働者の年齢・性別に応じた対策を取りましょう!

STOP 転倒災害

検索

年齢別・男女別転倒災害発生状況



50歳以上の高齢者は身体機能の低下などにより転倒災害の発生リスクが高まります。
また、50歳以上の女性で顕著に多く発生しており、転倒すると重症化して休業日数も長期化する傾向にあります。

※表の数値は労働者死傷病報告(休業4日以上)の雪による転倒労働災害(243件)を分析したものです。